



国民の森林・国有林

平成29年度国有林野等所在市町村長有志連絡協議会を開催 ～地域の森林・林業における課題等について意見交換～



森林・林業に係る地域の課題等について意見交換を行った協議会の模様

11月27日に熊本市内において「平成29年度国有林野等所在市町村長有志連絡協議会」を開きました。
この協議会は、地域と国有林野事業の連携強化を図り、地域の発展と国有林野事業の円滑な遂行を図るため、国有林などが所在する地域の市町村長（代表世話人）及び九州森林管理局長、代表森林管理署長などで構成される協議会であり、毎年開いているものです。

会議冒頭では、原田隆行九州森林管理局長から「熊本地震や平成29年7月九州北部豪雨などの災害から、一日も早い復旧・復興に全力で取り組むとともに、地域の財産である国有林野を守りながら活用することで、地域振興に貢献できるように取り組んでまいりたい。九州ではいち早く森林資源の利用期を迎えており、その分、全国に先駆けて課題も出てきていると認識している。林業の成長産業化に向けて活発な意見交換をお願いしたい」とのあいさつがありました。

また、林野庁から出席した吉村洋経営企画課長よりあいさつがあり、続いて河野裕之治山課水源地治山対策室長より林野庁の主要な取組みや2018年度予算概算要求の状況などについて説明が行われました。

その後、出席いただいた市町村長より、各県単位で開催された有志協議会の報告や、各市町村での森林・林業に係る取り組みについての紹介をいただきました。

市町村長からは、災害に強い森林づくりのための市町村と森林管理署の連携強化、森林所有者の特定や境界の明確化に関する支援について、森林環境税（仮称）に関する要望、シカ・



活発な意見交換が行われました

イノシシなどの鳥獣被害対策の強化、海岸林の松くい虫被害対策の強化などについて発言がありました。

その後、林野庁及び九州森林管理局から、森林環境税（仮称）の検討状況、平成29年7月九州北部豪雨に関する中間とりまとめの概要などについて回答し、意見交換を行いました。

最後に原田局長より、それぞれの課題・要望に対して具体的に取り組みを進め、各市町村と連携を密にし、地域の抱える課題にしっかり対応していきたいとの発言があり、盛会の中で終了しました。

九州森林管理局では、いただいた貴重な意見や要望をふまえて、国民共通の貴重な財産である国有林野が、開かれた「国民の森林」となるよう、管理経営に努めて参ります。

（担当）企画調整課

フォレスト等活動推進会議を開く

新たな課題への対応や知識・技術力の向上を図る

当局大会議室において、九州フォレスト等連絡協議会との共催により、11月16日・17日にフォレスト等活動推進会議を開きました。

本会議は、九州管内のフォレストなどを対象に、地域で活動する中で新たな課題への対応や、知識・技術力向上のための「フォローアップ（CPD）（継続専門教育）」の一環を図ることを目的に毎年開いており、今回は九州各県のフォレストなどのほか、特別講演には木材・建設業界などからの参加者も含め約130人が参加しました。



130人が参加した特別講演の様様

会議1日目には、3人の方に特別講演をいただきました。

最初に、JR九州の津高守氏が「日向市駅〜木づかい〜ななつ星in九州〜九州を売る」と題し、地域と鉄道の繋がりを大切に、列車の車内設備や駅舎など、住宅分野以外における木材利用の先進的な取組や地域の街づくりについて、次に、株式会社さつまファインウッドの藤村要氏が「国産材 スギ2×4材への要求品質と評価に対応する、さつまファインウッドの生産体制」と題し、国産材スギによる2×4材の安定した品質を、安定価格にて安定供給を可能とした生産体制や、国外輸出などを含めたこれからの可能性・展開などについて講演。



特別講演の津高氏

最後に、FOREST MEDIA WORKS株式会社の榎崎達也氏が「ここが変だよ、林業分野のIT化」と題し、タブレット型コンピューターを活用した森林管理サービスや、林業業界ニーズと他業界の技術シーズをマッチングさせた技術の開発など、川上・川中・川下における森林・林業に対する取組について講演をいただきました。

2日目は、各県などで取り組まれている市町村森林整備計画作成に向けたサポートチームを発足し、地域の要望や課題の抽出、勉強会などのチーム活動や造林コストの低減に向けた精英樹の開発、モデル実証団地設定の取組などについて情報提供を行い、活発な意見交換が行われました。



特別講演の藤村氏



特別講演の榎崎氏

また、セミナー終了後に「九州フォレスト等連絡協議会定例会」が行われ、各機関における取組状況の報告、今後の活動方針などについて意見交換が行われました。

一方、屋久島森林生態系保全センターでは、奥村克生生態系管理指導官が中心となり、ヤクスギのコンテナ苗の育苗試験を実施することとし、11月9日にハサ嶽国有林の天然更新した若齢林から穂木を採取しました。

われ、次期会長に佐賀県の永守直樹氏、副会長に長崎県の堀口竜男氏を選出し、更なる協議会の発展を目標に掲げ閉会しました。

(担当：技術普及課)

ヤクスギ球果を採取

【屋久島森林管理署】11月20日、21日の2日間において、縄文杉のケープリング設備などの撤去のため来島していた高木登攀技術者に依頼して、ヤクスギ球果の採取を行いました。

当日は、当署職員のほか屋久島地杉苗木生産協議会メンバーも参加し、登攀技術の講習を受けるとともに、「川上杉」など7本の天然ヤクスギから土嚢袋30袋の球果を採取。本年は数年一度の球果の豊作の年であり、多くの球果を採取することが出来ました。

今後は、この種を活用して関係者で実生苗を生産していくこととしていきます。

採取した穂木は、九州大学や林木育種センターなどの専門家に指導いただいた方法により、11月14日に署・センター職員により剪定、培地作成を行い、260本の穂木をコンテナなどに直挿しし、保全センター敷地内に設けた屋外管理場所において育苗しています。



採取の様子と採取した球果（右上）

保全センターとしては、日々の散水管理や気象データの記録及び写真撮影を行うなど、先ずは、発根することを目的に育苗管理を行い、データをとりまとめることとしています。

当署及び保全センターでは、今後とも県や町及び屋久島地杉苗木生産協議会と連携しながら、屋久島における苗木生産技術の確立に向けて各種取組を実施していく考えです。

森林教室を開催



本立て作りに取り組む児童たち

【屋久島森林管理署】当署では、

安房小学校からの要請を受け、11月17日に同校体育館において5年生33人の児童を対象に、森林教室を開きました。

当日は、あいにくの雨天で室内での森林教室となりましたが、当署黒田伸博主任森林整備官の進行により、まず児童らに木製の本立てを作成してもらい、次に種模型を作り飛ばしてもらった後、職員によるドローンの実演を行いました。

本立て作りでは、慣れないトンカチと金釘に悪戦苦闘しながらも、世界に一つの自分だけのマイ本立てが出来上がり大変嬉

しそうです。

また、19日には、屋久島環境文化研修センターからの要請に

応じて、「屋久島子どもエコ隊」として研修センターが募集した屋久島町内の小学4年から6年生の19人の隊員に対して、ヤクスギランド近くの遊々の森において間伐体験や種模型飛ばし、ドローンの実演を行いました。

当日は、当署川畑充郎署長から森林管理署の業務内容や森林の働き、地球温暖化などの講話の後、7班に分かれて職員の指導を受けながらスギの間伐体験を行いました。

間伐体験では、初めて木を伐つます。「うん、なるほどなあ」と知らないことが多く自問自答しています。我が家の庭は90坪ばかりの狭い庭で、森林には比べ物になりません。

話は変わりますが、夫が10月より臨時職員として市役所の林

た児童もおり、林内のあちこちから木が倒れるたびに歓声が上がっていました。

今回の活動で、子どもたちからは「木材を使って本立てが作られて貴重な体験が出来た」「木を伐るのは大変だったけど、森林の管理やシカの個体管理など森林管理署の仕事が理解できた」「ドローンを初めて見えてすごいと思った」などの感想が聞かれるとともに、先生方からも素晴らしい講義をもらったとお礼をいただきました。

当署としては、引き続き小学校などからの要請に応じ森林環境教育を実施し、次世代を担う

子どもたちに対して森林の大切さと木材を使うことの大切さを伝えていく考えです。



間伐を体験する子どもエコ隊員



40年前の我が家は建物だけがあり、庭にも木がありませんでした。何もなかった庭に木を植えて、今では立派な庭木や花が育っています。毎朝、庭の手入



山崎 けい子 さん

果実酒にして食します。四季を通して、春は目白・ウグイス、夏には桜の木に蝉の大合唱、秋にはコオロギなど一年中楽しませてくれます。

私は木のことがもっと知りたくて国有林モーターになりました。毎回冊子を楽しみにしてい

私の好きな木に囲まれた庭

政課に勤務しています。職員の方々は全員忙しく出たり入ったり、10月には商業施設での植木の配布、11月には耶馬溪の植樹祭があり、山国川流域から北九州まで水を利用している人々総

気軽に参加することができました。また、植樹が終わって地元の方が振る舞ってくれたイノシン汁が熱々で美味しく、体が温まりました。紅葉はちらほらと色つき始めており、また見

頃の時期に訪れようと思いましたが。

耶馬溪は今年4月に日本遺産に認定されました。一万円札おなじみの福沢諭吉の地、中津市は人口8万4657人おり、中津城の桜が綺麗で、環境が良

く野菜や果物・魚が美味しいです。特産は鱧やから揚げ等々…

約40km先には北九州空港があり、利便性が良く時々利用しています。皆様どうぞ遊びにいらしてください。お待ちしております。

(大分県大分市在住)

林業遺産認定証のレプリカを贈呈

【屋久島森林管理署】当署においては、本年5月に当署管内の国有林野内にある森林軌道や事業所、宿舎、小中学校跡さらに屋久島の林業を記録した古写真集などが、日本森林学会より2016年度の林業遺産「屋久島



荒木町長（右）へレプリカ贈呈



佐々館長（左）へレプリカ贈呈

の林業集落跡及び森林軌道跡」として認定され、認定証を頂きました。

当署としては、署内で検討して認定証のレプリカを作成し、屋久島内の林業関係の機材類やパネルなどを展示している屋久杉自然館と、屋久島町に贈呈することとして準備を進めてきました。

この度、町内の屋久杉加工業者に依頼していた、屋久島の人工林材を利用した額に納めたレプリカが完成したことから、川

畑充郎署長が屋久島町の荒木耕治町長と屋久杉自然館の佐々彰聰館長を訪問し認定証のレプリカを贈呈しました。

荒木町長からは「現在建設中の新庁舎の町長室に飾るようにしたい」また、佐々館長からは「来館者に展示品と併せて林業遺産のことを紹介したい」と感謝の言葉をいただきました。

当署としては、今後とも関係機関や研究者と連携しながら、今回認定された林業遺産を適切に保全し、後生にその価値が受

け継がれていくように努めていく考えです。

登山道整備に向けて

【熊本南部森林管理署】10月25日、当署と「多様な活動の森」を締結している「白髪岳を守る山の会」との協働により、白髪岳登山道の案内標示板の整備などを図るための事前登山を行いました。

当日は、絶好の秋晴れの中、同会員6人と当署職員6人が参

加し、登山口にて作業の内容や段取りを打ち合わせた後、樹名板のメンテナンスなどを行うとともに、当署のGPSを活用して白髪岳山頂までの目安となる、合目のポイントを決めながら山頂を目指しました。

昼食後は、山頂から登山口までの距離を計測しながら下山し、ルートの全距離3600mを測定しました。

最後に、白髪岳を守る山の会長から「登山中に、一般の登山者から距離や今何合目かの質問に対し、返答が難しかったので、標示板が整備されれば大変助かる」との挨拶を受け、当日の作業を終りました。

今後、案内板のデザインなどの打合せを行い、再度協働で設置を行うこととしています。

わたしの美しい森フォトコンテスト開催













わたしの美しい森
フォトコンテスト

募集期間 平成29年12月11日(月)
≫ 平成30年2月13日(火)
(当日消印有効)

撮っておきの大自然、魅せてください。

日本各地の森林において撮影された、森林景観の美しさ、生命のすばらしさ、体験による感動など、森の魅力を伝える写真を表彰します。

林野庁を含む「わたしの美しい森 フォトコンテスト」実行委員会は、日本国内の森林や山村地域の魅力的な風景・場面を撮影した写真を募集・表彰し、これを公表するためのフォトコンテストを開催します。

詳細につきましては、林野庁HP (www.rinya.maff.go.jp/) をご覧下さい。

皆様からの多数の応募をお待ちしています。

【主催：「わたしの美しい森 フォトコンテスト」実行委員会】



事前登山を行った山の会会員と署職員

森林の「アートギャラリー」表彰式・除幕式を開催
60作品の中から最優秀賞1点・優秀賞5点を選出

11月19日、九州森林管理局に

おいて「第13回森林（もり）の
 アートギャラリー」の表彰式並
 びに除幕式を聞き、制作にあつ
 た生徒たちのほか指導した先生・
 保護者など55人が出席しました。

今回は、昨年から8月11日が
 「山の日」として国民の祝日と
 なったことを記念して、「山の
 日」の意義「山に親しむ機会を
 得て、山の恩恵に感謝する」を
 広く市民に普及するため、テー
 マを「山の恩恵」とし、下絵を
 市内の中学生を対象に募集しま



最優秀賞作品の前で記念撮影

した。

募集に対し、17校60作品の応募があり、下絵審査で選考された6作品について8月からアートパネル（コンパネ1・4頁×4・5頁）の制作を依頼。完成した作品の中から、最優秀賞1点、優秀賞5点を実施団体である日本森林林業振興会と選考委員で選出しました。

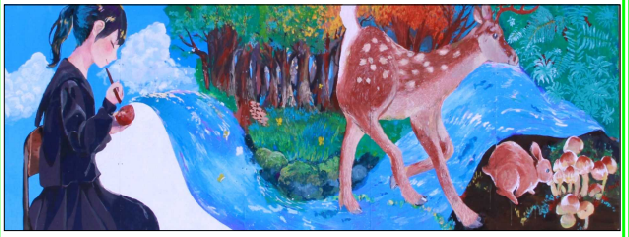
当日は、入賞した6校の表彰を行った後、作品展・展示所へ移動、制作にあつた生徒たち自らの手よりの全作品の除幕を行ったところ、作品が現れるたびに生徒や先生・保護者から歓声が沸き上がっていました。

今回の作品も、最優秀賞1点を九州森林管理局正門右壁に、優秀賞5点を東側フェンスに設置しました。

これまで展示されている作品は道行く人たちの心を癒し、地域から好評を博しています。今回展示した作品も「山の日」制定の意義と合わせ、自然や森林について考えてもらうきっかけになる事を期待し、今後2年間展示することとしています。

（担当：技術普及課）

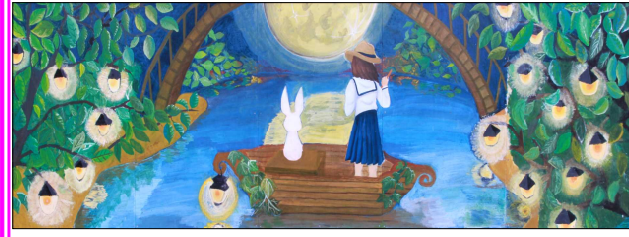
【優秀賞】



「山の恵み」

熊本市立出水中学校 美術同好会1～3年生

【最優秀賞】



「神秘の森～少女と小舟～」

熊本大学教育学部附属中学校 美術部2年生

【優秀賞】



いのち
「生命の瞬間」

熊本市立楠中学校 美術部2年生

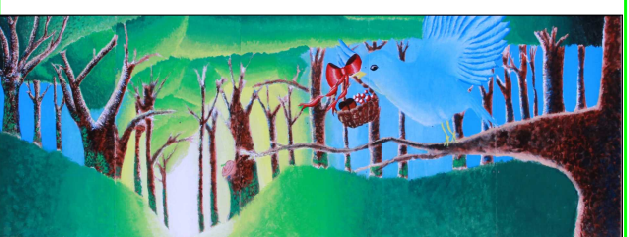
【優秀賞】



「朝露のしたたる森」

熊本市立帯山中学校 美術部2年生

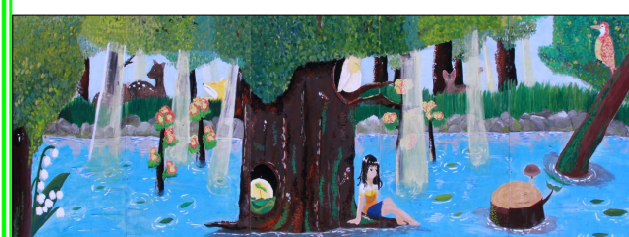
【優秀賞】



「朝日からの贈り物」

熊本市立二岡中学校 美術部3年生

【優秀賞】



もり いのち
「森林の生命」

熊本市立清水中学校 美術部2年生

綾プロ・ボランティア間伐を実施 ソーラーフロンティア(株) 社員等27人が作業に汗を流す

綾の照葉樹林プロジェクトでは、2005年の協定締結以降、一般企業や学生・NPO・綾町市民など、一般市民も含む様々なボランティアの方々による間伐作業を行い、照葉樹林への復元に取り組んでいます。



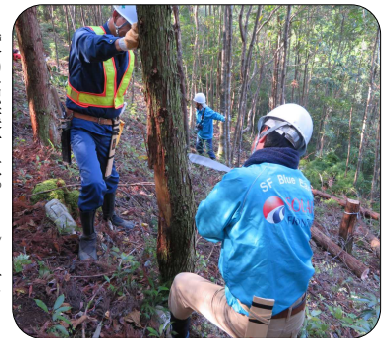
間伐作業を行ったソーラーフロンティアの皆さん

作業当日は、天候にも恵まれ集合場所である綾町の「照葉大吊り橋」に集合、車3台に分乗し作業地近くの綾南林道に到着後、主催者を代表し飯干好徳宮崎森林管理署長が挨拶し、準備運動のあと、作業地に移動し職場の仲間や家族と一緒に楽しく間伐作業を行いました。

参加者の中には、立木を伐るのが初めて、鋸を使うのも初めてという方もいて、受け口・追い口切りに悪戦苦闘し、息を切らせながらも楽しく作業を行い、伐倒したときの迫力に歓声や拍手が上がるとともに、作業後には「きつかったが楽しかった」「間伐をすることでこんなに林内が明るくなるのか」などの声が聞かれました。



鋸での作業に四苦八苦



職員の指導を受けながらの作業

綾の照葉樹林プロジェクトでは、今後も引き続きボランティアの皆様協力もいただきながら、照葉樹林の復元に取り組みでいくこととしています。
(担当 計画課)

クリーン活動を実施

【熊本南部森林管理署】11月8日、大畑国有林56・57林班内及び国道221号線沿線において地元自治会、人吉市役所、請負事業体並びに当署と合同でクリーン活動を行いました。

当日は、小雨混じりの天気で足場の悪い中、熊本南部林業土木協議会の協力も得て、総勢42人で約2時間ゴミの回収に汗を流しました。

今回回収したゴミは、可燃ゴミ300キ、不燃ゴミ210キの計510キ、不燃ゴミについては昨年の約2倍に増えており

国道沿線の山林で人目に付きにくいこともあることから、不法投棄が後を絶たない状況です。当署では、今後も地元自治会などと連携をとりながら、不法投棄ゼロに向け、捨てる人のマナー向上の取り組みを続けていくこととしています。



雨の中作業に汗を流す参加者

卒業記念に登山道整備

【大分西部森林管理署】11月16日、大分県立玖珠美山高等学校3年生の卒業記念「登山道保全整備活動」が、当署九重山国有林内の長者原から泉水山へ至る登山道で行われ、当署からも職員1人とグリーン・サポート・スタッフ3人が参加しました。当日は、地域産業科の生徒や引率の先生、環境省及びくじゅ



卒業記念に整備を行った玖珠美山高校生

うの自然を守る会の会員など総勢60人が5班に分かれ、笹や枝の刈り払い、急傾斜地での手すりの代わりになるロープ張りや土留め作りなどの作業を行いました。生徒たちは、足場の悪い登山道を、土留めの資材や作業道具を背負いそれぞれの持ち場まで運搬、スタッフの指導を受けながら真剣に作業に取り組み、うっそうと茂っていた登山道は見違えるほどきれいに整備され、多くの登山者の方々が安全に安心して利用していただける登山道になりました。閉会式では生徒代表から「辛い作業もありましたが卒業記念の思い出の一ページになりました」と感謝の挨拶があり、作業を終了しました。

火災予防の意識を高めるために 消防訓練・シェイクアウト訓練を実施

11月9日から15日までの一週間「火の用心 ことばを形に習慣に」の全国統一防火標語のもと、秋季全国火災予防運動が行われる中、九州森林管理局においても、火災が発生しやすい時季を迎えるに当たり、火災予防の意識を高めるため11月14日、局庁舎において消防訓練及び地震に備えたシェイクアウト訓練を行いました。



シェイクアウト訓練を行う職員

消防訓練は、熊本市西消防署池田庁舎に協力をいただき、火災発生時の通報、初期消火や避難誘導など、本番さながらに全職員が参加し実施しました。

また、避難終了後には、消火器を使った初期消火の訓練も体験しました。



消火器による初期消火訓練を行う職員

訓練後、消防署から、火災の時は▼火災発生を大声で知らせる▼実際の火災では、煙に巻き込まれないよう、火災発生階より上の階の人は、出場所から遠い階段を使い避難する▼一酸化炭素や有毒ガスを避けるためハンカチなどで口を押さえ避難する▼災害対策では、家庭でも災害などに備え安全について日頃から話し合いを行い、準備をしておくことが大切であることなどを指導いただきました。

最後に自衛消防本部長の両角実総務企画部長から「訓練などを通じ日頃から防災意識を高め、火災や災害時の迅速な行動・避難につなげてほしい」との挨拶があり、消防（地震）訓練を終了しました。

今回の訓練により、日頃から備えることの大切さを再確認した一日となりました。

（担当：経理課）

保育園児に森林教室

【熊本南部森林管理署】多良木町の社会福祉法人「むつみ保育園」からの依頼を受け、園児17人を対象に当署職員による森林教室を開きました。

午前中は、大規模林道沿線のアポロ峠付近で、紅葉狩りや球磨盆地に浮かぶ雲海を見たり、森林や植物について説明を行いました。

午後からは、多良木町のえびす広場において、どんぐりのコマまわし体験、色づいた葉っぱを使った「しおり」や「押し花」作りなどを行いました。園児の作品はどれも独創性があり、大人顔負けの素晴らしい出来映えとなりました。

最後に参加者全員で集合写真を撮影し森林教室を閉会、小春

日和の中、広場に響く園児の歓声に元気を貰った一日となりました。



参加者全員で記念撮影

JICA研修生を受入

【西表森林生態系保全センター】

当センターでは、国際協力機構（JICA）北海道国際センター（帯広）からの依頼を受け「地域住民の参加による持続的な森林管理コース」の研修生を受入れ、11月7日～8日の2日間に渡り研修を行いました。

1日目は、午後から合同庁舎会議室において、研修生16人（12ヶ国）に対し、「西表島の森林・生物多様性と保全管理」について講話を行いました。

講話後の質疑応答では、外来種の駆除や森林環境教育の支援などについて活発な意見や質疑

がありました。

2日目は、石垣島から西表島へ移動し、仲間川の遊覧船に乗船。マングロープ林やサキシマスオウノキ（森の巨人たち百選）を視察した後、大富展望所から日本一大きなマングロープ群落を見学しました。

その後、竹富町交流センターに移動、保護林及び国有林の境界などについて現地で説明を受けた後、海岸林自然再生試験地などを視察しました。

視察後の質疑応答では、境界の保全管理や外来種駆除、森林再生、地元との連携などについての質問が相次ぎ、有意義な研修となりました。

今回の研修で得たものが、帰国後の彼らの活動に寄与することを期待します。



12ヶ国16人の研修生を受入

2017年を振り返って

いろいろな出来事がありました

九州森林管理局では、九州地域における林業の成長産業化の実現に向け様々な取り組みを行っています。ここでは、2017年の出来事をこれまでの「広報九州」で振り返ってみました。

保護林管理委員会を開く

2月24日、第3回保護林管理委員会を開き、保護林再編の最終(案)及び保護林管理方針書(案)が承認され、当局管内の保護林は、3区分・90箇所に再編された。



保護林の再編等を承認

(平成29年3月号に掲載)

有識者懇談会を開催

2月28日、地域管理経営計画と国有林野施業実施計画の樹立

及び変更に係る有識者懇談会を開き、各委員からの意見を聴取するとともに、活発な議論が行われた。



活発な議論が行われた懇談会

(平成29年4月号に掲載)

間伐推進コンクール表彰式を行う

平成28年度国有林間伐推進コンクールの表彰式を行い、林野庁長官表彰の優秀賞を受賞した1社及び九州森林管理局長表彰の優秀賞を受賞した1社に対し表彰状の授与を行った。

(平成29年4月号に掲載)

治山・林道コンクール表彰式を行う

4月6日、平成28年度治山・林道コンクールの表彰式を行い、6社に対し九州森林管理局長表彰、また、林野庁長官賞を受賞した2社に屋久杉の額縁を贈呈するとともに、当該工事の担当技術者並びに監督職員に対し局長表彰を行った。



表彰式の様子

(平成29年5月号に掲載)

重点取組事項の記者発表を行う

4月19日、「九州国有林から林業の新しい風を」と題し、九州森林管理局平成29年度重点取組事項の記者発表を行い、7項目の取組について報道機関へ説明を行った。

(平成29年5月号に掲載)

菊池溪谷の現状を報道陣へ公開

5月1日、昨年4月の熊本地震により被害を受け、立ち入り規制が続く菊池溪谷を報道機関に公開した。

当日は、テレビ・新聞などの報道機関13社をはじめ、熊本県などから約30人の参加があった。(平成29年6月号に掲載)

林業生産管理勉強会を開催

5月11日、九州管内の林業事業体・各県職員・局署の関係者を対象に、林業生産管理勉強会を開き、生産性向上及びコスト削減に向けた作業システムの見直しなどについて、講師の説明及び手法の紹介を行った。



150人が参加した勉強会の様子

(平成29年6月号に掲載)

農林水産大臣賞を受賞

6月2日、農林水産大臣室において、平成29年度優良職員等表彰が行われ、当局が農林水産大臣賞を受賞し表彰状が授与された。

今回の受賞は、熊本地震への迅速な対応、支援活動などが高く評価されたもの。



熊本地震への対応が評価された

(平成29年7月号に掲載)

九州森林管理局長が交代

7月10日付けで九州森林管理局長が交代、池田直弥前局長は林野庁へ、後任には林野庁経営企画課の原田隆行課長が就任した。

(平成29年8月号に掲載)

次頁へ続く

**民有林と国有林が
一体的に森林整備を実施**

7月11日、北薩森林管理署において、九州森林管理局長と出水市の民有林所有者3人との間で、公益的機能維持増進協定を締結、国有林と隣接する民有地において、国有林の活用型間伐事業と民有林の間伐を一体的に実施することとなった。



民国連携した森林整備を実施

(平成29年9月号に掲載)

**コンテナ苗供給調整
会議及び生産技術向上
検討会を開催**

7月20・21日、人吉市において平成29年度コンテナ苗供給調整会議及び生産技術向上検討会を開き、苗木の安定的な供給や育苗技術の発展に向けて、活発な意見交換などが行われた。

(平成29年8月号に掲載)

**世界遺産地域科学委
員会及びヤクシカ・
WG会議を開催**

8月1・2日、屋久島において今年度第1回の科学委員会及びヤクシカWG会議を開き、ヤクシカの生態系への影響、山岳部利用のあり方などについて論議が行われた。

(平成29年9月号に掲載)

**芦北高校生が
国有林について学ぶ**

8月2日、熊本県立芦北高等学校林業科2年生5人を対象として、林業実践体験研修を行い、当局職員3人が、国有林や当局の業務・取り組みについて、講話を行った。

(平成29年9月号に掲載)

**農水省の仕事や
役割等をPR**

8月2・3日の両日、「しごとと？国のお仕事」夏休み見学ツアーが開かれ、当局もブースを開設。ストラップ「もっくん」作りの木工教室では、約150個のもっくんが作られるなど、大変好評で、農水省の仕事への理解を深めていただくイベントとなった。

(平成29年9月号に掲載)

民国連携推進会議を開く

8月30・31日、「平成29年度民国連携推進会議」を開き、各署の民国連携に係る担当者が出席、民有林施策についての講義やグループ討議などを通して、これまでの課題や今後の取り組みについて意見交換を行った。

(平成29年10月号に掲載)

5大学と協定を締結

九州地方の森林・林業が抱える課題の解決に向け、当局と九州地方の5大学が連携協定を締結。今後、連携・協力し技術開発・人材育成などの取組を戦略的かつ計画的に進め、林業の在り方・方向性を全国発信していくこととした。



鹿児島大学での調印式

(平成29年10月号に掲載)

中学生が職場体験学習

9月12日から14日にかけて、ナイストライ事業により熊本市立京陵中学校の2年生3人を受け入れ、境界巡検など国有林や九州森林管理局の業務について、職場体験学習を行った。



現場業務も体験しました

(平成29年10月号に掲載)

**国有林材供給調整
検討委員会を開く**

9月27日、本年度第2回の国有林材供給調整検討委員会を開き、各委員からの意見を聴取、「現時点での供給調整は要しないが、需要の急増時に対応できる機動的な生産体制について検討の必要がある」との検討結果となった。

(平成29年11月号に掲載)

**森林・林業の技術交
流発表大会を開催**

10月17・18日の両日に渡り「平成29年度森林・林業の技術交流発表大会」を開き、九州各地域の林業関係者や高校生などが、地域における林業の活性化と林業技術の向上につながる38課題の発表を行った。



38課題の発表が行われた

(平成29年11月号に掲載)

(担当)総務課

人のうごき

☆12月1日付異動
計画保全部治山課付
村田 修也【北海道局】
鹿児島署森林技術指導官
荒木 政明【森林整備部企画官】

(担当)総務課

インターンシップ

【長崎森林管理署】当署では、

長崎県立諫早農業高等学校環境創造科2年生の生徒3人を、10月11日から13日までの3日間に渡り、インターンシップとして受け入れました。

3人の生徒は、自然とふれあうことに興味を持ち環境創造科で学んでおり、将来的には自然を相手にできる職業に就ければとの思いから、当署にインターンシップを希望しました。

1日目は、署内で秋山郁夫署長などから国有林野情勢や九州局管内及び当署の概要説明などを受けた後、眉山治山事業所に移動、担当者から治山業務の重要性や眉山観測システムの説明を受け、現場では実物の導流堤



インターンシップを終えて

などに触れ、その重量感に驚いていました。

2日目は、大村森林事務所森林官から森林官の業務などについて説明を受け、保育間伐活用型の現場では、実際に稼働する高性能林業機械を目の当たりにし迫力を感じていました。午後には、巨木百選にも選ばれている菅瀬スギ（大名杉）や菅瀬ヒバを視察し、若手職員の説明を聞くとともに、樹高測定方法などを体験しました。

3日目は、レクリエーション



都会の中の憩いの森
監物台樹木園の
多様な植物

エンジュの柱は、木目の精緻さと、白と濃い茶色の柱を斜めに深く溝をつかった装飾床柱が目に焼き付いています。



エンジュの柱

北海道旅行して彫刻、特に熊の彫刻は有名ですが、他にエンジュによる、白い材と茶色の材を巧みに彫り込んだ彫刻もたくさん店先を飾っています（イヌエンジュと思われる）。熊本県植物誌で調べたら九州にはイヌエンジュは自生していないようです。

の森「田代原風致探勝林」でネイチャーゲームを体験した後、野岳植物群落保護林などの視察を行い、生徒達はレク森や保護林を国有林が管理していることに驚いていました。

後日、生徒達から「今回のインターンシップを通して、今まで知らなかった長崎森林管理署の仕事を経験することができ、国有林野事業について、より深く知ることができた。今後は、インターンシップで学ばせていただいたことを活かして進路決

121 エンジュ (マメ科)

確実なエンジュは監物台樹木園で観察できます。樹木園左側中央、樹高が約30m、花や果実は、台風が来て落下した時でないと観察できません。

莢果が落ちている時には、「さや」を割るとぬるぬるして種子がつかって、正体が分からないと触りたくないのが本音でした。

イヌエンジュとの区別は、果実がところどころくびれてジュス状になるのがエンジュで、数珠状にならないのがイヌエンジュです。エンジュの名を持つハリエンジュ（ニセアカシア）とは幹に刺がないことから区別でき

定に繋げていきたい」とのお礼文が届きました。

事業体と勉強会等実施

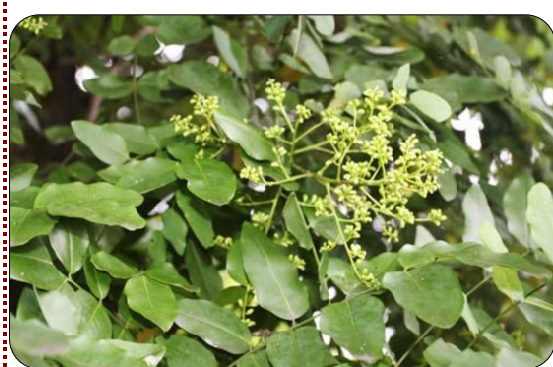
【宮崎北部森林管理署】10月19日、当署会議室において、国有林野事業県北請負事業体及び関連林業事業体の依頼により、業務グループ担当者と管内で事業実行中の造林・素材生産事業現場代理人など24人が参加して、勉強会及び意見交換会を開きました。

この勉強会は、今後の素材生産及び造林事業の円滑な事業運営・生産性の向上を図ることを目的とし、請負事業体からの要請により行ったものです。

当日は、当署職員により生産請負事業の事業進捗状況、実行記録などの作成要領を事例により説明、また、森林整備事業実行管理の進め方及び作業上の注意点を説明しました。

現場代理人からは、日頃から現場で感じている問題点や疑問点についての意見が数多く出され、事業の進行に当たり有意義な意見交換会となりました。

最後に各請負業者の更なる林業技術の向上と、災害を絶対出さないとの意思統一を図り会議を終了しました。



24人が参加した勉強会

【おわび：みどりの散歩路はお休みしました】